

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第七小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒206-0812
東京都稲城市矢野口1901-2

E-mail inagi7e@educet.plala.or.jp

Website <http://academic1.plala.or.jp/ine7e/index.html>

児童生徒数 男子 326名 女子 318名 合計 644名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「矢野口を愛する子、矢野口で夢と希望をかなえる子」を活動テーマとして、ESDを、地域に貢献する人材を育成するための教育活動と捉え、ESDの実践を通して地域の良さを振り返り、自分でできることを考え、実践する力の育成を目標とした。

具体的には、読書活動、交流活動、自然体験を柱に、①環境に係わる活動、②矢野口地域・稲城市に係わる教育に取り組んでいる。

① 環境に係わる活動

本校では、学校のそばにある、市が管理する「フラワーロード」の花壇に全校で花を植え、環境委員会が世話をしている。1年生では、生活科の時間にそこで育てたマリーゴールドを使って草木染めをする。自分たちが植えたマリーゴールドの花を使って、ハンカチを染める。伝統的な草木染めの模様の入れ方を知り、自分で工夫して模様を付け、その美しさを感じることがができる。子供たちは、自分の幼稚園で草木染めを体験したこともある児童がいるようではあるが、また、自分のハンカチをどのような模様にしたいかの予想を立て、計画して模様を付けることができた。

草木染めにおいて伝統的な絞り模様を入れたり、道具を使って自分で工夫して模様を付けたりした。児童は、自分たちの身近なものを工夫して活用したり、植物をはじめとする環境についての関心を深めることができた。

②地域に係わる教育

2年生では、自分たちの住んでいる地域の矢野口をもっとよく知るために、地域の探検をしたり、弁天通り商店会の店の方にインタビューをしたりするなど、地域のよさを発見するとともに、地域の人たちとふれあう活動を行った。地域の人たちと積極的にコミュニケーションをとることによって、自分たちが地域の人たちとつながっているということを実感することができた。また、すすんで活動に参加することで、受け身にならず、自分から関わろうとする気持ちや、地域に生きる一員として、共に生きているという意識が高まった。

3年生では、近所の梨農家の方の協力を得て、梨の花粉付け、摘花、袋かけ、収穫の体験をさせていただいた。また、体験したことをもとに自分で課題をもち、梨について本で調べ、ポスターや新聞などにまとめた。地域柄、旬の時季には梨を食べることが多いという児童だが、自ら体験をすることで、矢野口の梨は農家の方々が大切に育ててきたこと、安心・安全な梨作りのために農家の方々が思いを込めて様々な工夫していることを実感した。また、自ら課題意識をもって調べ、梨には歴史があること、梨にある栄養などを知った。これらの学習を通して、自分も地域の一員として、これからも梨作りが続いていき、地域外の人にも矢野口の梨の良さを広めたいという思いが強くなった。



① マリーゴールド染め



② 矢野口探検隊（2年生）



② 梨体験（3年生）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

わたしたちの稲城

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

本校では、RIN教育（Reading（読書）、Interchange activity（交流活動）、Nature activity（自然体験）を特色ある教育活動として定めている。これらを軸に、ユネスコスクールとして各学年で単元計画をたて、計画的にESDに取り組めるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

ESD委員会を校内分掌として位置づけ、各学年で1名ずつ所属している。ESDカレンダーを作成し、各学年の各単元において、どのような力の育成を目標としているかを明確にしている。また、各学年で1年間最も意識してESDに取り組む単元を決め、単元指導計画の作成をするとともに、各学年で取り組みがすすめられるよう、校内のESD推進委員から呼びかけている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

各学年のユネスコスクールとしての活動は地域との結びつきが強く、地域からの賞賛の声や様々な要望を受けることで、外部からの活動の評価に関しては把握できている。しかしながら、校内での評価の中心は児童自身の感想やポートフォリオなどからしか評価することができず、活動そのものの評価に課題を残しており、今後校内で改善していく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

来校者が通る学校の職員玄関に END 掲示板を設置し、各学年の ESD の取り組みについて学内の教職員のみならず来校者にわかるようにしている。また、年に 2 回ほど学校だよりで取り組みについて啓発活動を行なっている。本校 HP にも活動の一部を発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

現在のところ、特になし。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

稲城市全体がユネスコスクールに加盟しているため、各校の代表者が集まり、END 推進委員会での意見交流を行っている。全体計画や、ESD カレンダーなどの資料を持ち寄り、交流を行っている。また、29年度は、都の公立学校副校長会の研究発表大会で ESD および、ユネスコスクールとしての活動の様子を、稲城市として発表した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

地域と学校を結ぶ活動として、地域に認められてきていることが大きいと思う。児童の中にも、「もっともっと地域のことを知り、もっともっと地域のためになりたい」という思いを強くしている子がいる。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

30年度においても、「矢野口を愛する子、矢野口で夢と希望を育む子」を活動テーマに、矢野口地域について知り、考え、行動できる自動の育成につとめる。

1年生では、地域のお年寄りを招いた昔遊びの交流、2年生では矢野口探検を通じた地域理解、3年生では梨体験を通じた自然体験、4年生では地域のお祭りへの参加を通じた地域交流活動、5年生では他の地域の児童との交流を通して稲城市への理解を深める活動、6年生では、野沢温泉村宿泊体験学習を通じた自然体験を重点単位として取り組む。

例年2年生と3年生の地域活動が重複していることがあったので、計画の見直しをしたい。